

「スカウトみやぎ」－ 日本ボーイスカウト宮城県連盟 広報誌

SCOUT MIYAGI

2024.11

No.62



特集

シン・進級課程

2024.11
No. **62**

Contents

- 04 特集
シン・進級課程
-
- 06 第13回日本アグーナリー
-
- 08 高校生年代の国際交流
2023年度日韓スカウト交歓計画
-
- ローカルほっとライン
- 11 泉第1団
高清水第1団
迫第1団
-
- 県連盟からのおしらせ
- 12 連盟長表敬訪問
スカウトフォーラム
-
- 13 全国的な取り組み
全国防災キャラバン



県連盟からのお知らせ



宮城県連盟からみなさまへのお知らせです。

■ 県連盟広報委員会より

広報委員会では、「宮城県におけるスカウティングの知名度をあげ、ファンを増やす」ことを目的に掲げ広報活動の刷新を行なっております。この度、県連盟の広報誌である「スカウトみやぎ」のリニューアルを行い、LINE公式アカウントによるオンライン配信に切り替えることにいたしました。

リニューアル後、初の本誌は各団への配布といたしますが、次回以降はLINE公式アカウントによる配信といたしますので、ぜひLINEアカウントの登録をお願いいたします。

POINT 1

右のQRコードから簡単に友だち登録！
QRが難しい場合は、ID「@628nhzrx」検索！

POINT 2

広報誌「スカウトみやぎ」が直接、皆さんの
お手元に届きます！
他の友だちにシェアをしたり、保存も簡単！

POINT 3

広報誌に関するフィードバックや質問を直接
することができます！
ぜひ活用してみてください！

LINE 公式アカウント

友だち 募集中

@628nhzrx

LINEの「友だち追加」から、ID検索するか
QRコードをスキャンしてください

特集

シン・進級課程

2024年、ボーイスカウト部門・ベンチャースカウト部門の新たな進級課程が施行となります。

■ 新たな進級課程の概要

2019年よりボーイスカウト（BS）部門とベンチャースカウト（VS）部門では進級課程が一本化されており、初級スカウトから富士スカウトまで6段階の進級に、小学6年生から高校3年生の7年間の間で取り組む、というものでした。

スカウトの技能や知識と進級章の対応を目指しましたが、結果として高校1年生となり、ベンチャースカウトに進級した後でも、ボーイスカウト年代の活動内容に取り組む状況となり、本来のベンチャースカウト部門に定められた活動目標に則った活動・プログラムが困難となってしまいました。

そのような状況を踏まえ、ボーイスカウト部門とベンチャースカウト部門でそれぞれ定められた活動目標をスカウト自身が達成できるよう、2024年より当該2部門を切り離した、新たな進級課程を施行します。

■ 新たな進級課程のポイント

部門ごとの進級課程・課目に向けた切り離しを優先

それぞれの部門で定められた活動目標を達成し、青少年の成長を効果的に促進するために、部門ごとに進級課程と課目の切り離しを実施しました。

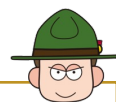
ボーイスカウト部門の進級課程・課目の見直し方針と内容

各進級に求められるスカウトスキルを厳選し、特に2級と1級の進級課目のシンプル化を実施。

- BS部門の進級課程は、初級～菊まで
- 防災と環境保全等に関する内容の盛り込み
- 多様なスカウトの現状に合わせた、取得技能章の見直し

ベンチャースカウト部門の進級課程の見直し方針

- 入隊要件の見直しとアドベンチャーバッジの着用を追加
- VS部門の進級課程は、ベンチャー章～富士まで
- VS部門の活動目標達成に向けて、プロジェクト法などのプログラム展開を促進・強化することを意図した見直し



進級課程の改定に寄せて

今回の進級課程改定の大きな狙いは、進級課程をボーイスカウト部門とベンチャースカウト部門それぞれの部門の中で完結するようにしたということです。

改定前の進級課程とその運用では年代に応じたプログラムへの取り組みが阻害されるケースが散見され、VS本来の活動に支障をきたしていました。

BS部門にもVS部門にもそれぞれ部門の活動目標が設定されています。日ごろ隊で様々なプログラムを立案して実施するのは、スカウトがBSの4年間、またVSの3年間の間にこの部門の活動目標を達成できるようにするためです。活動目標は全ての部門に設定されており、ボーイスカウト教育の目的が達成できるように段階的かつ年代の特性が考慮されています。

進歩制度のねらいは、スカウトひとり一人のチャレンジの結果を自他ともに認めて次のステップへの励ましを行うもので、教育目的の達成に向けた様々なプログラムのうちのひとつの手段です。今回の改定がスカウトの成長に効果的に寄与できることを期待しています。

日本ボーイスカウト宮城県連盟
県コミッショナー
中橋 邦

※ 県コミッショナー

教育面で基準の維持と純正な発展のためにおかれる、県の教育指導面の責任者。

■ ボーイスカウト活動の目標

- 神（仏）をうやまい、自分のつとめを行う。
- 好奇心と冒険心を満足する活動を行う。
- 野外活動により大自然を知る。
- リーダーシップを身につける。
- 自分の役割と責務を果たすことを学ぶ。
- 他の人々に役立つ奉仕活動を行う。
- 人生に有用な知識と技能を習得する。
- フェアプレーの精神と正義感を養う。
- 自ら考え判断し決断する力を養う。
- 愛と感謝する心を養う。
- 自分の特性と長所に目覚め、創造力を伸ばす。
- 国際組織の一員として、国際理解について学び体験する。
- 健康の増進につとめ、身体を強健にする。

■ ボーイスカウト活動の進級

上進後はスカウトバッジを着用し、初級スカウトを目指します。初級スカウト章取得後、2級、1級、菊という順番で、ボーイスカウト部門の到達目標である「菊スカウト」に挑戦します。



スカウトバッジ



初級スカウト章



2級スカウト章



1級スカウト章



菊スカウト章

ボーイスカウト部門の進級課程

■ ベンチャースカウト活動の目標

- 「ちかい」と「おきて」の実践に励み、信仰を深める。
- 各種の文化的及び社会的活動に参加し、自ら計画したプロジェクトを達成する。
- 野外活動を通して自らの健康の増進を図り、自己の確立を目指す。
- 指導者の援助を得て、各種身体的活動に挑戦する。
- 他の人々への理解を深めるとともに、奉仕の精神を身に付け、団や他部門への協力と地域社会に対する奉仕に努める。
- 協調性とリーダーシップを養うとともに、社会の一員としての自覚を深める。
- 国際組織の一員として、国際活動、国際協力について学び、実践する。

■ ベンチャースカウト活動の進級

上進後はアドベンチャーバッジを着用し、ベンチャー章の取得を目指します。ベンチャー章取得後、隼、富士という順番で、スカウトの到達目標である「富士スカウト」に挑戦します。



アドベンチャーバッジ



ベンチャー章



隼スカウト章



富士スカウト章

ベンチャースカウト部門の進級課程

第13回日本アグーナリー

報告



13th Nippon Agoonoree 2024年8月実施 (国際障がいスカウトキャンプ大会)

実に8年ぶりとなる「日本アグーナリー」が、福島・猪苗代の地で開催され、約950人が仲間とともに、充実した5日間を過ごしました。

■ 日本アグーナリーとは

日本アグーナリーは、4年を周期に、障がいのあるスカウト（特別な配慮を必要とするスカウト）が相集い、海外を含めた多くのスカウトたちとのキャンプ生活を通じて、スカウト仲間としての心の触れ合いと共通体験の中から、明るい希望を持って積極的に社会生活に参加することを目的に開催しています。

第8回大会までは、障がいのあるスカウトの大会としていましたが、第9回大会では、単に障がいのあるスカウトのためだけの大会ではなく、参加するすべてのスカウト・指導者が、期間中の諸活動を通じて共に生きることを学ぶ「学習の場」とし、第10回大会以降は、障がいの有無にかかわらず、相互に人格と個性を尊重し支え合う「共生する社会」を実現するという社会のニーズに応えることを目指して開催しています。

期間

2024年8月8日(木)～12日(月)

場所

福島・国立磐梯青少年交流の家

人数

○参加人員 950人

○来賓 295人

テーマ

「We Can! ふかめよう友情（ゆうじょう）、ひろげよう絆（きずな）」



■ プログラムのご紹介

場内プログラム

会場内には、20のプログラムブースを設け、工作や水遊びなど、さまざまなプログラムに挑戦しました。障がいの有無に関わらず、参加することができ、ドリームアワード（提示された取り組みをクリアすることで授与される賞）の獲得を通して、達成感を得ることができました。また夜には「フォーラム」を行い、アグーナリーを通してやってみたいことや、大会後に実践したいスカウト活動について話しました。

場外プログラム

台風の接近により、一部の施設には訪問できなかったものの、会場の外では福島名産の工芸品作り体験、お城の見学などのプログラムが展開されました。

交流の夕べ

交流の夕べでは、佳子内親王殿下のご臨席を賜り、国内外の参加隊の演舞をご覧いただいただけでなく、参加者に向けたお言葉を賜りました。

■ 参加したスカウトのリーダーの感想

今回日本アグーナリーに参加した「宮城伊達隊」を率いるリーダーより、所感をいただいています。

宮城伊達隊 隊長

渡邊 豪文 岩沼第1団

今回第13回日本アグーナリー（国立磐梯青少年交流の家 以下：13NA）の開催に伴い、岩沼第1団としては、団行事として参加を決めていた。その後には泉第1団、仙台第2団、名取第1団から合同隊として参加の話があり宮城伊達隊として総勢30人（内2人は本部スタッフ）で参加した。

宮城伊達隊として発足後に4月末に2泊3日、7月に1泊2日の事前訓練キャンプを行い、出発前の7月15日に竹駒神社にて安全祈願と岩沼第1団育成会会長の村田宮司からのお言葉と、佐藤岩沼市長から驚くほどスカウト活動に詳しい激励の言葉をいただき、いざ本番へ。全員が事故、怪我なく5日間を過ごすことができ嬉しく思う。アグーナリーへの参加は初めてだったが、食事やプログラムは障がいスカウトへの配慮が充分にされていること、また障がいスカウト達と同じ活動ができ非常に良い経験ができた。規模は小さいが久しぶりに一同が集う全国大会で、他県、他国との交流、記念品の交換をすることができた。宮城伊達隊のカブ隊は「交流のゆうべ」に秋篠宮佳子内親王殿下の前で堂々とジェスチャーゲームを披露し佳子内親王殿下が喜ばれている姿がとても印象的だった。

また、閉会式では司会進行の大役も成し遂げ、宮城伊達隊を全国にアピールすることができた。最終日前夜、台風接近に伴い安全面での心配はあったが、ボーイ隊の野営は宿泊棟へ避難をすることになり、疲れのピーク時に安心して就寝することができた。この5日間はスカウト、指導者共に良い経験になった。合同隊を運営するにあたり事前の確認、調整不足など反省点はあるがこれらはノウハウとして次回に活かしていく。また最終日の宮城伊達隊解隊式の前に上級班長より「またこのメンバーでキャンプを行いたいのので計画書を提示する連絡先（LINE）を教えてください。」と言われたときは、こんなに嬉しいことはなく、やはりこの大会5日間は大成功だったと目頭が熱くなった。

4年後もまた新しい宮城伊達隊として参加ができればと思う。宮城伊達隊！ありがとう！

宮城伊達隊 隊長

乙訓 敬仁 仙台第2団

スカウト数の少ない当団にとって、なかなかチャンスが訪れない全国規模への大会が、さほど遠くない福島県で開催されるという意味で、13NAにはコロナ禍で延期になる前からずっと参加する方向で動いていました。延期により参加対象スカウトの年代は変わりましたが、今回ようやく参加することができました。

アグーナリー参加は私にとっても初めての経験であり、また人数も野営経験も少ない当団BS隊にとっては不安でしたが、合同隊での参加ということで、その点でもスカウトの良い経験になると思えました（合同参加を快諾してくださった渡邊団委員長《岩沼1》には本当に感謝致します）。

その後、泉1団、名取1団とも合流し、リーダー人数としても厚い体制となれたことは幸いでした。2回の事前訓練キャンプでは、初めて会う同年代のスカウト同士でしたが、すんなり打ち解けあい、いつの時代も同じであると再認識しましたが、その背景として、チャレンジスタッフではなく原隊参加としてくれた佐久間上級班長の存在が大きかったと思います。13NA本番では、入場待ちに始まり、テントサイトの狭さ、暑さ、シャビーな食事、台風による予定変更や雨など、さまざまな想定内・外含めた要因が起りましたが、渡邊隊長以下リーダー達の尽力もあり、何とか事故なく乗り切ることが出来ました。また、リーダーの連携の悪さから迷惑をかけてしまった事もありましたが佐久間上級班長以下、班長次長たちの活躍は大きく、彼らのリーダーシップにより、リーダーは大いに助けられました。今回の参加を通じて彼らも大きく成長したと実感しています。帰りの車内でスカウト達から「参加する前に思っていたより楽しかった」旨の感想を聞いて無事大役を終えた事に安堵しました。最後に、お世話になった大会関係者、リーダーの皆様には本当に感謝致します。

高校生年代の国際交流

報告

2023年度日韓スカウト交歓計画（2024年1月実施）



2023年度日韓スカウト交歓計画にて開催された日韓スカウトフォーラムに、宮城県連盟から佐藤愛美里スカウト（高2）が参加しました。

■ 日韓スカウト交歓計画とは

日韓スカウト交歓計画とは、日韓両国のスカウトの交流を通じて相互理解を深め、さらなる良好な関係を計るために開催しているスカウト交流事業です。合計9日間の中で、相互理解を目的としたフォーラムや、東京周辺での社会・歴史・文化・芸術・科学技術・教育等の見学や体験学習のプログラムを経験します。

韓国派遣団が羽田空港に到着後、最初の3日間で日韓スカウトフォーラムを開催し、相互の理解と友情を深めました。



■ 日韓スカウトフォーラム

1日目は開会式とアイスブレイク、2日目は日韓スカウトの混成グループによるSDGに関する話し合いと、文化交流によるダンスや歌の披露を実施。最終日はフォーラムにて議論した内容の発表と学びの共有、両国で理解を深め、友情を深める場となった。



参加スカウト

佐藤 愛美里 仙台第1団ベンチャースカウト隊

日韓スカウトフォーラムでは班を編成しSDGsの身近な課題に対して具体的な解決策を講じた。両国は地理的に近接しているため共通の問題や価値観が多く見られ、特に私達の班では文化的・宗教的背景を考慮する必要があった。議論は度々難航したが、この過程で得られた洞察や発見は非常に貴重なものとなった。

期間

2024年1月6日(土)～14日(日)

場所

東京・富士・箱根ほか

人数

- 韓国連盟参加者
スカウト27人、指導者4人
- 日本連盟参加者
日韓スカウトフォーラム参加
計37人（30県連盟）

事業実施の経緯

1999年度から2012年度までの14年間に渡り、日本連盟では政府の委託事業として、韓国連盟を招聘する日韓スカウト交歓計画を実施しました。

この間、韓国から約2000人のスカウトが来日し、日本のスカウト約1500人と交流しました。韓国スカウトが参加した日本国内のイベント・大会を含めると、のべ1万人以上が交流し、両国の良好な関係構築の一翼となりました。

この成果を踏まえ、日韓両国連盟では本事業の事業再開に合意し、日本連盟は「日韓スカウト交歓計画」、韓国連盟は「日韓スカウトフォーラム」を再開しました。

2020年からは新型コロナウイルス感染拡大と、韓国連盟の第25回世界スカウトジャンボリー準備を考慮し事業を中止しておりましたが、本年度は事業を実施することができました。

大学生年代の活動

日本ローバームート2024 (2024年9月実施)

日本連盟事業として、実に19年ぶりに「日本ローバームート2024」が開催され、栃木・那須塩原の地に、国内外合わせてスカウト327人が参加しました。

■ 日本ローバームートとは

日本ローバームート2024は、ローバースカウト年代を対象とした野営大会です。野外での共同生活、社会と接点を持ったプログラム、海外スカウトとの交流、未経験の活動、大会運営やクルー（6人の少人数グループ）での自治活動を通して、参加者が自己を理解し、自己実現へ向けた道筋を描き、行動に繋げていくことを期待する大会です。

自己実現とは、わかりやすく言えば「**自分に最も適した達成すべき活動を見つけ、自分の可能性を発揮すること**」です。

ローバースカウトは**スカウティングの目的達成**に向かいます！



閉会式の様子



日本ローバームート2024に参加した外国連盟スカウトの様子

**NIPPON
ROVER
MOOT
2024**
SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN

期間

2024年9月3日(火)～8日(日)

場所

栃木・日本連盟那須野営場

人数

総勢 327人

- 日本連盟参加者 220人
- 外国スカウト連盟（台湾・韓国・香港・マレーシア）28人
- サービスチーム 48人
- デイビジター 31人

「ローバームート」の歴史

ムート (Moot) とは、ローバースカウト年代（18歳～25歳）を主な対象とした野営大会のことであり、ジャンボリー同様に、国内外で数年に1度開催される。

1931年にスイス・カンデルシュテークにて最初の世界ローバームートが開催され、ヨーロッパを中心に、面白く冒険的な活動として、小規模で実施された。

それ以降、大会の名称や目的は変更されながらも、約4年に1度のペースで開催されており、2025年には「第17回世界スカウトムート」がポルトガルにて開催される。

日本では、2016年に「RCJクエスト 2016 in 高萩」、2018年に「RCJ Re:Quest」が開催されたが、「ローバームート」としての開催は2005年を最後に叶わない状況があった。「日本ローバームート2024」はローバームートの復活大会として、19年ぶりの開催となる。

■ 開催プログラム（一部抜粋）

本大会では、6の全体プログラム、18の場内プログラム、5の場外プログラム、そして5つの場内常設プログラムが実施された。一部プログラムの様子を写真とともに紹介します。



大集会の様子：参加者全員が一堂に会し、参加者からの出し物やゲーム、ダンスや演奏を行った。外国スカウト連盟からは伝統舞踊紹介があったほか、本格的なバンド演奏もあり、大いに盛り上がった。



ラフティング体験：那須岳を水源とする鬼怒川でラフティングを体験を行った。鬼怒川の美しい自然に囲まれて、急流を下るスリルや波しぶきを全身で体感できる、暑い夏にぴったりのプログラムだった。



パラグライダー体験：那須高原でパラグライダーを体験をした。那須高原の大空を鳥のように風を切りながら飛ぶ特別な時間となった。道の駅付近の吊り橋散策も行い、充実したプログラムであった。



茶臼岳登山：那須連峰の主峰である茶臼岳の登山プログラム。また、珍しい植物や動物が息する貴重な生態系を持つことで知られる沼沓原湿原にも立ち寄り、自然を感じるプログラムだった。

■ プログラム紹介

全体プログラム：開会式／閉会式／ヴィジル／Welcome Night／自由交流プログラム／大集会

場内プログラム：野営場整備／防災／スポーツ大会／スイーツ作り／那須歴史探訪／UNHCRワークショップ／乃木神社清掃／フォトコンテスト／感情表現のワークショップ／ピザ作り／ウッドクラフト／坐禅／地域社会貢献／ドローン体験／リーダーシップワークショップ

場外プログラム：パラグライダー体験／狩猟学習・ジビエ体験／茶臼岳登山／ラフティング体験／日光ガイド

場内常設プログラム：ローバーコミュニティ紹介／手紙を書こう／テントサウナ

※プログラム名は一部変更しています

ローバースカウトとは

ローバースカウトとは、18歳から25歳の年代を指し、自身の自己実現と社会奉仕を目的に多様な活動を展開します。地域での活動から国際協力まで幅広い活動を実践しながら、自身の興味や関心を深め、かつ他者への奉仕を行います。自身の意思決定と他者への影響を経験しながら、社会で活躍できる人材へと成長していきます。

ローカルほっとライン

宮城県には15個の団、600人以上のスカウトと指導者がスカウト運動に参画しています。
各団の活動の様子をお届けいたします。

団合同 上進式

泉第1団 ボーイスカウト隊 隊長 三枝慎

2024年03月17日（日）団合同 上進式が晴天の下で行われました。ビーバー隊からローバー隊までの全ての隊が揃いました。泉1団の上進式では、各隊へ上進するスカウトがロープを勢い良く飛び越えていきます。それぞれのスカウトの成長を感じる瞬間ですね。今回はカブ隊へ4名、ボーイ隊へ8名、ベンチャー隊へ7名、ローバー隊へ2名が上進しました。4月からは各隊それぞれ新しいメンバーを迎えての活動が始まります。お別れは辛いですが、また新たな出会いもあります。これからも更に楽しく活動をしていきましょう！



災害時に備えて！

高清水第1団 ボーイスカウト隊 隊長 長谷川好一

高清水第1団では「災害時でも暖かい食事を食べよう！」をテーマにカブ隊・ボーイ隊の合同集会を開催しました。

電気やガス、調理器具が使えない時でも固形燃料と身の回りの物を使って食事ができるか挑戦です。紙袋で作る目玉焼きと紙皿でお湯を沸かすお吸い物がメニューです。紙でできた袋や皿は燃えてしまうと恐る恐る調理をしていましたが、目玉焼きはちょっと不完全なスカウトがいたものの、暖かい食事を全員でいただくことができました。これからも災害時に役立つ技術を数多く身につけていこうと思います。



1 日人権擁護委員に任命

迫第1団 ボーイスカウト隊 隊長 高橋孝規

イオンタウンはさまざま人権擁護活動の啓発を目的に、来客を対象にした声がけと、PR用チラシの配布を行いました。

この活動には10年以上前から毎年参加しており、登米市長も一日人権擁護委員として活動していますが、今年はボーイ隊のスカウトも一日人権擁護委員として任命され、差別のない社会の実現に向けて登米市の人権擁護委員と共に啓発に活動に努めました。



県連盟からのお知らせ



宮城県連盟からみなさまへのお知らせです。

■ 連盟長（宮城県知事）表敬訪問

実施日 2024年8月19日(月)

場所 宮城県庁

令和5年度の精励スカウトの表彰および大会参加スカウトの活動報告として、宮城県連盟連盟長の村井嘉浩知事への表敬訪問および、生涯学習課長表敬懇談が開催されました。



表敬スカウト一覧

三枝 あかり	(泉1・菊スカウト章)	柴 莉緒	(塩竈1・WSJ報告)
千葉 翔央	(泉1・菊スカウト章)	佐藤 愛美里	(仙台1・WSJ報告)
古山 凌	(岩沼1・菊スカウト章)	植村 祥太	(泉1・WSJ報告)
鈴木 尊人	(岩沼1・菊スカウト章)	角田 流星	(泉1・13NA報告)
日野 竜之介	(仙台37・隼スカウト章)	大友 智大	(岩沼1・エセックス国際ジャンボリー)
針生 敏行	(泉1・指導者表彰)		

村井連盟長より顕彰記念品の授与をいただいたほか、表敬スカウトより、25WSJの活動報告やこれまでのスカウト活動の報告を行いました。生涯学習課長表敬懇談では13NAの活動報告や今後のスカウト活動への意気込みなどをお話することができました。

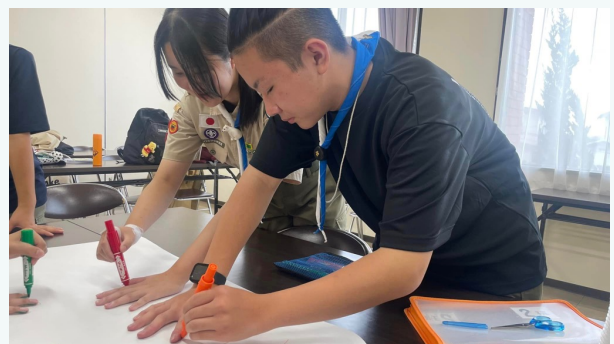
■ スカウトフォーラム

実施日 2024年8月25日(日)

場所 県連事務所

「高校生年代×地域社会 ～私たちだからできること～」をテーマに、ベンチャースカウトを対象としたフォーラムが開催されました。地域社会にある課題を洗い出すことからはじめ、様々な意見を出し合いながら問題点を絞りこみ、自分たちが取り組める課題を明確にしました。

どのような地域社会を目指すのか、ありたい像を考えながら、必要な取り組みの明確化と、個人や団内、県内で取り組むべき内容も決定し、アクションプランとして採択しました。県内での取り組みは、全国スカウトフォーラムへ、そしてアフターフォーラムへと繋がっていきます。



全国的な取り組み



公益財団法人ボーイスカウト日本連盟では、より良い教育運動を発展するため、加盟員だけでなく地域社会を巻き込んだ多様な施策を展開しています。

■ 全国防災キャラバン

実施日 2024年9月8日(日)

場所 イオンモール富谷

県内より19名のスカウトが集まり、開催された「全国防災キャラバン」。地域の子どもたちを対象に、防災について楽しく学べる体験型のワークショップ実施しました。ブロック塀の危険を疑似体験したり、イラストを見ながらの危険予知トレーニング、防災に必要なものを記憶するキムスゲームなどを各ブースで実施し、多くの子どもたちやその保護者が「防災」を体験することができました。



全国防災キャラバン

ボーイスカウト日本連盟は、地域の防災力向上に寄与するため、地域の子どもたちとその保護者を対象に、万が一の有事の際に役立つ「防災」をテーマにした「全国防災キャラバン」をイオンと共同で開催しています。

全国のイオンモールで開催しており、今年で9年目の取り組みとなります。

わたしたちと一緒に「防災」について考えてみませんか？

全国防災キャラバン

「そなえよつねに」
みんなで作る、準備のこころ。

LINE 公式アカウント

友だち 募集中

「スカウトみやぎ」は
LINE公式アカウントによる
デジタル配信をしています

@628nhzrx



スカウティングは、
子どもの可能性を引き出す
教育運動です。

編集 日本ボーイスカウト宮城県連盟 広報委員会

発行 日本ボーイスカウト宮城県連盟 〒985-0841 多賀城市鶴ヶ谷1-4-1（宮城県多賀城分庁舎）